

(詳細評価様式)

農業農村整備事業等事後評価地区別資料

都道府県名	埼玉県	関係市町村名	羽生市
事業名	県営ほ場整備事業	地区名	てこばやしだいに 手子林第二
事業主体名	埼玉県	事業完了年度	平成16年度
〔事業内容〕 事業目的： 本地区は、埼玉県北東部に位置する水田地域である。 事業実施前は、農地の区画は小さく不整形であり、道路も狭く農作業は小型作業機械の使用に限られていた。また、粘質土壌で用排水兼用の土水路のため排水性は悪く、適正な水管理ができない状況であったため、本地区は規模拡大により担い手が育つ環境ではなかった。このため、農地の大区画化、用排水路や道路の整備により、農地の集団化と大型機械の導入を可能とし、営農の低コスト化と担い手育成を目的に本事業を実施した。 総事業費：1,295百千円 事業期間：平成8年～平成16年度 受益面積：71.2ha（田60.2ha、畑11.0ha） 受益戸数：156戸 事業内容：整地工A＝71.2ha、排水路工L＝10.7km、道路工L＝11.0km 暗渠排水工A＝60.2ha 用水路工 L＝10.8km			
〔項目〕 ア 事業効果の発現状況 (1) 収量の変化 本地区は、受益面積71.2haの約85%にあたる60.2haが水田として営農されている。本事業により、用排水が分離され、適正な水管理が可能となり、彩のかがやきを中心とした水稲が栽培されている。 本地区における水稲の収量は、事業計画時点が482kg/10a、今回の事後評価時点では519kg/10aとなり10a当たり37kg収量が増加した。 (2) 営農時間の短縮 不整形だったほ場が30a以上の大区画に整備されたことや、農道の拡幅整備により農作業機械の大型化やスムーズな通行が可能となり、作業時間が半減するとともに用水のパイプライン化による水管理時間の大幅な減少が実現した。 ・地区内のほ場の主な機械作業時間（耕うん、代掻き、田植え、収穫） 整備前21.8時間/ha → 事後評価時点10.4時間/ha ・水管理時間 整備前75時間/ha → 事後評価時点で23時間/ha ・農作業機械の変化 地域の機械台数の減少割合は全県と比較すると高くなっている。 大型機械は全県と比較すると増加しており、小型機械は減少している。 (3) 地域を支える担い手の活躍 ほ場整備を契機に地区内にいなかった担い手が9名育成され、地区内の約44%にあたる31haの農地が担い手農家に集積され規模拡大が図られた。整備により担い手による経営規模の拡大が容易になり、賃貸借も進み本地区では耕作放棄地は見られず、全て優良農地として利用されている。なお、担い手の多くは、周辺の整備地区を含めた地域においても活躍している。			

(4) おいしい米づくりへの取組み

本地区では県育成品種「彩のかがやき」の導入が進み、担い手の地区内作付面積31haのうち、45%も栽培される品種となっている。平成19年度には担い手の一人が米・食味鑑定士協会主催による全国コメ食味コンクールの品種別部門にて、初めて県産品種「彩のかがやき」で入賞を果たした。

(5) 新たな試み

本地区を中心に活躍する担い手の一部で、水田に魚道を設置しメダカ等を育み、環境に配慮することでブランド化を目指す米作りの取り組みが行われ始め、地域への波及が期待される。今後は環境配慮の取り組み効果の明確化や、農家間の情報共有、消費者への情報発信といったことも関係機関で支援していく。

イ 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備された道路と排水路の管理は市が行っている。なお、排水路の土手などの日常的な管理（点検、清掃、草刈り）は地元自治組織と各受益者により適切に行われている。

ウ 事業実施による環境の変化

(1) 農業生産環境

地区内農家アンケートによると農作業の効率化だけでなく、整備前に日常的にあった軽トラックの脱輪横転や対向車等の心理的な不安がなくなったことが経営面積を増やす上で目に見えない影響として大きい。整備により、耕作放棄もなくなり「美しい農村風景に生まれ変わった」等の回答も多かった。

(2) 生活環境

本事業により、道路が整備され、安全な通学路や生活道路としても利用されている。また、緊急車両の通行もスムーズとなり、暮らしやすい安全な地域社会の形成に役立っている。

エ 今後の課題

事後評価アンケートでは、兼業農家の約2割から、5年後に経営規模を縮小したいとの回答があった。一方、専業農家には規模拡大を志向する方もおり、今後も農地の流動化は進むと予測される。現在、44%の農地を担い手が経営しているが、更に作業効率を高め、儲かる農業を行うためには、隣接の基盤整備地区も含めた広い範囲で集積とあわせて団地化を進める必要がある。また、集積による作業性の向上だけでなく栽培品目の団地化を行い、水稲以外の作目の作付拡大を図るなど、高齢化する現在の担い手（平均年齢64歳）の次世代の担い手が育つ農村とする必要がある。

事後評価結果	<ul style="list-style-type: none">・ 本事業により区画の整形、拡大や農道の拡幅整備など生産基盤が整備され、作業コストの低減、農地の利用集積が進み、9人の担い手が育成されている。・ 現在、耕作放棄地がなく、担い手を中心に周辺地区も含め生産活動が行われていることは、本事業の効果として高く評価されている。・ 羽生市においても、整備に躊躇し不耕作化の進んでいる周辺地域に本事業地区を担い手集積のモデルケースとして紹介するなど、地域農業の振興に寄与しており、本事業の効果が高く評価されている。
第三者の意見	

(注1) 「事後評価結果」欄は、項目の内容を総括して記入する。

(注2) 「第三者の意見」欄は、第三者の意見のうち特記すべき内容について記入する。